

第9回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず<企画シート作成上の注意>をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ) オオサカガクインダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) カマカリゼミナール
大阪学院大学	経済学部	鎌苅ゼミナール

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ) ヘイタクチャンス	フリガナ) ホリグチ タクヤ	2
hey!!takuchan's	堀口 拓矢	

研究テーマ（発表タイトル）

「明日（あした）へ繋ぐ 献血活動」～学生を対象としたランダム化比較試験～

1. 研究概要（目的・狙いなど）

私たちは、若者の献血離れをどうすれば抑制できるか、アンケートと共に検証実験を行う。アンケート調査では、若者の献血に対するイメージや考えを調査し、血液不足の人数で人の感情のスイッチはどのように変化するかを検証する。そのため、実験ではランダム化比較試験と呼ばれる手法を用い、アンケート調査と検証実験の2つの結果から、減少傾向にある若者の献血協力を増加させるための対策を考察する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

アメリカの経済学者ダン・アリエリーは、世界で起きた大災害や世界規模の病気などの寄付金の内訳を見てみると、援助者は被災者や患者の人数が少ないほど寄付金が多く、多いほど寄付金が少ないと提唱している。献血は人口減少と高齢化というダブルパンチに加え、若者の献血離れが血液不足に拍車をかけており、今後の日本では高齢化が進み、年齢制限などで献血が出来ない人が増加する傾向が見られる。しかしながら、献血活動で不足人数を示しているにもかかわらず、献血協力者の増加には繋がっていないことが現状である。ダン・アリエリーの提唱した、世界規模の問題を身近な問題、寄付金をお金では換算することができないもの、この2つの条件を変え、援助を求める人数の「少数」と「多数」で人の援助意思に影響があるのかを検証するような研究は、私たちが知る限り行われていない。

3. 研究テーマの課題

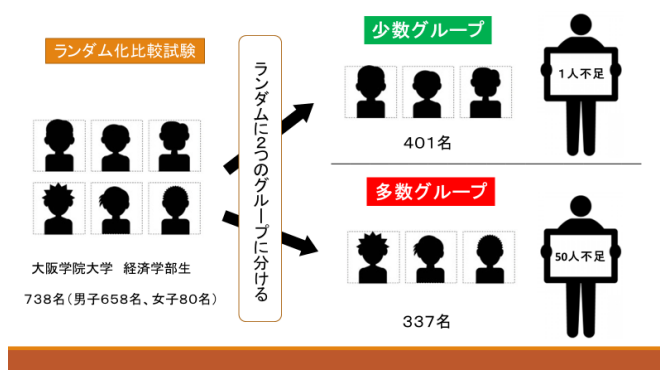
日本の少子高齢化が今後ますます進んでいくと将来、血液が不足することは目に見えている。現状では、「血液が●人不足しています。」の看板を横目で見ながら人は通り過ぎて行く。今後、血液不足解消のために、若者の献血に対する声を聴き、献血への協力体制を考え直すことが必要であると考え。血液の不足人数が「少数」と「多数」である場合、人の援助意思に差が出るのかを検証する。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

「血液が●人不足しています。」の看板を見ても、人はあまり危機感がないのが現状である。血液不足の人数を「多数」と「少数」と提示条件を変えただけで、人の感情のスイッチは変化するのかを検証する。そこで、ランダム化比較試験と呼ばれる実験手法を用いて、本学の経済学部生を被験者として行う。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

大阪府赤十字血液センターへ献血の現状について、職員の方にヒアリング調査を行った。そして、本学 738 名（男子 658 名 女子 80 名）の学生を対象に献血に関するアンケート調査と共にランダム化比較試験と呼ばれる実験を行った。ランダム化比較試験という方法は、被験者をランダムに 2 つのグループに分け実験を行い、片方のグループには、「あなたが、歩いていると、このような看板が目にとまりました。不足している血液があなたと同じ血液型だとしたら、あなたは献血に協力しますか？」と尋ね、「●型の血液が、1 人分不足しています。あなたの力で 1 人の命が救われます。献血にご協力をお願いします。」と書かれたものを見せ、そのあとに、「協力する」・「協力しない」に回答してもらう。そして、もう片方のグループにも同様の質問をし、あなたが、歩いていると、「●型の血液が、50 人分不足しています。あなたの力で多くの命が救われます。献血にご協力をお願いします。」と書かれたものを見せ、そのあとに、「協力する」・「協力しない」に回答してもらう。人は数の大きさによって、本当に援助意思に差が出るのかを比較する。



6. 結果や今後の取り組み

実験結果では、世界的規模でも身近な問題でも、そして、寄付金をお金では換算することができないものに変えても、ダン・アリエリーが提唱したように、「少人数」の方に人の援助意思は多く流れた。男女別で見ると、男子学生は、少数に援助意思が流れたが、女子学生では、少数・多数であっても、援助意思の差は見られなかった。アンケート調査の結果では、若者のほとんどが「献血に興味がない」と回答しているのにも関わらず、少人数不足に援助意思が多く流れた。そして、若者は売血にも興味も示している。しかし、売血は現在の法律では禁止されている。また、アンケート・検証実験から若者は、献血は「ボランティア」だと考えているのにもかかわらず、「お礼」は必要だと考えている。現状の献血活動のままでは、ますます若者の献血協力者は減少傾向にあるだろう。今後、不足人数の示し方、献血のお礼も改善する必要があると考えられる。

7. 参考文献

日本赤十字社 (<http://www.jrc.or.jp/donation/> 閲覧日 5月11日)

お金と感情と意思決定の白熱教室：楽しい行動経済学 (著) ダン・アリエリー 2014年

30万人の患者より1人の悲劇のヒロインが心を動かす理由

(<https://susumu-akashi.com/2015/02/heroine/> 閲覧日 5月11日)

深刻な若者の献血離れ「少子高齢化に伴い、将来の献血基盤を支える若年層の献血率の増加が

重要な課題」と日本赤十字社 (<https://news.careerconnection.jp/?p=59601> 閲覧日 6月20日)

血を売るのは違法？献血買取りが無くなった理由と世界の事情 <https://hikakaku.com/blog/> (閲覧日 6月20日)

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例、商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

調査に使用したアンケート

【企画シート作成上の注意】 ※「第9回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただきます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。